

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271102065
法人名	医療法人 萌愛会
事業所名	医療法人萌愛会 グループホーム花
訪問調査日	平成 20 年 8 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 6 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271102065
法人名	医療法人 萌愛会
事業所名	医療法人萌愛会 グループホーム花
所在地 (電話番号)	長崎県西海市西彼町伊ノ浦郷207-1、209-1 (電 話) 0959-28-1187

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,950 円		その他の経費(月額)	7,500円(水道光熱費)
敷 金	有(円)		○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	210 円	昼食	420 円
	夕食	315 円	おやつ	55 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成 20年 7月 10日現在)

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		4 名	要介護2		9 名	
要介護3		5 名	要介護4		0 名	
要介護5		0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	87 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長崎セント・ノーヴァ病院、大串歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国立公園の島々を一望でき、田園や木々に囲まれた環境にあり、地域密着型サービスとして定期的に運営推進会議を開催しており、地域の行事や活動にも積極的に参加し、地元住民との関わりを大切にしている。
職員は、利用者が安心して介護サービスを受けられる場所として支援に取り組むことを職員全員が認識し、実践している。また、それぞれに何ができるか、何がよりよい支援かを考え、一丸となって、利用者一人ひとりを尊重し、個性を大切に、「明るく楽しい老後生活」という理念のもと支援に努めている。
安全対策、災害対策についても、消防署の指導をしっかりと受け、万全な対策が取れるよう工夫に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ユニット間の仕切りを入れて装飾などを工夫し、ユニットごとに雰囲気や特色を出す等、前回の課題についての工夫が施されている。法人内の職員異動についても配慮され、ホームにおいては馴染みの支援が継続できるようになっている。改善については、運営者を中心に管理者、職員と話し合いが重ねられ前向きに取り組んでおり、改善への積極的な姿勢が窺える。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価を踏まえ、評価票を全職員に配り、それぞれに評価に取り組み、短い時間だがミーティングを何度も重ね、意見をまとめた。職員は、自己評価に取り組むことで新しい気付きがあり、今後、さらに各項目の理解を深めていく取り組みを検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。これまではホーム側の情報や利用者近況を報告することが会議のほとんどを占めていたが、家族代表の方の協力で家族会が発足したり、「何かお手伝いすることはありませんか」と声をかけてもらったりすることがあり、ホームへの理解や協力が得られるようになった等会議の成果が見受けられる。会議での意見や提案事項については、ミーティングや勉強会などで、職員間でも十分検討し、具体的な改善に取り組むよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見、苦情、不安への対応について、職員は、家族に対して常に親しみを持って話しかけ、何でも気軽に話してもらえる雰囲気作りに留意している。家族から提案された意見や要望は職員全体に伝え、改善への取り組みやサービスの質の向上に努めて支援にあたっている。
③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や区長など地域の方々から、情報や利用者の見守りなどの協力を得ている。また、住民向けの講演依頼などがあり、ホームとして少しでも地域に貢献できる場面があると実感している。その他、地域の行事や活動に参加する中で、地域の人達の理解が深められていると感じる場面がある。子どもたちをはじめとする地域住民との交流で、利用者の笑顔を見るたびに、地域との連携の重要性を感じ、さらなる取り組みに努めたいと考えている。
重点項目	④

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい暮らしができるよう、「明るく楽しい老後生活」という運営理念のもと、4項目の目標を掲げ、地域に根ざした介護、支援のあり方を模索しながらサービスの実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者をはじめ、職員全員で理念を復唱するなどして、共有、理解に努めている。さらに、職員一人ひとりが理念に沿って、自分にできる最大の支援を見つけ実践するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や区長など地域の方々から、情報や利用者の見守りなどの協力を得ている。また、住民向け講演の講師依頼などがあり、ホームとして少しでも地域に貢献できる場面があると実感している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、評価の意義をしっかり理解し、前回の結果についても全職員で話し合い改善に取り組んでいる。特に人事異動に関する評価結果については、運営者が十分に理解し、ホームでは馴染みの職員による支援ができるように人事異動に配慮している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、おおそ3ヶ月に1回の割合で開催し、会議内容について記録を残している。これまでは、事業所側の状況報告に終始する傾向だったが、今後は、会議の進行など型にはめず、意見が出しやすい雰囲気作り等を課題とし、より身近な会議にできるよう検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会を中心として、他事業所や行政担当者が集まる福祉施設連絡協議会に参加して、意見や情報の交換を行っている。今後、市担当者などに、さらに積極的に働きかけ、地域の情報を共有し、事業所の運営に反映させたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「花だより」にて、ホームでの利用者の近況報告を行っている。多くの利用者が近隣からの入居であるため、家族の訪問の機会も多く、そのつど家族に利用者の状況報告を行っている。その他、介護計画の見直し等に際して、個別に電話連絡を入れるなど、必要に応じて報告を行うようにしている。また、最近家族会を立ち上げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族に対して常に親しみを持って話しかけ、何でも気軽に話してもらえぬ雰囲気作りに留意している。最近、草むしりの協力を家族に呼びかけ、食事会、茶話会を行った際に、様々な質問や意見が出され、日頃の支援の様子を見てもらうことができ、日頃、家族から聞いている意見とともに、ホームの運営に活かせるよう話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は、法人全体として人事異動が行われていたが、認知症高齢者への支援における馴染みの関係の重要性について、運営者の理解があり、ホーム職員の異動について配慮されている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には、最初の3ヶ月間管理者が目標に関するチェックや面談を行い、業務内容の理解を促すよう指導している。また、事業所内外の研修についても、段階に応じて受講できるように配慮している。研修参加者は報告書を作成している。	○	研修報告書を全職員に回覧するなどして、情報を共有できるよう取り組むなどの工夫の検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア研究会をきっかけに、近隣の事業所と月1回交流を持っている。職員は、利用者とともに先方を訪問するなどの交流を図っており、利用者にとっても楽しみごととなっている。職員は学ぶことが多く、法人内の勉強会への他事業所の職員の参加も受け入れ、相互の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人内の病院を利用していた方が入居することが多く、入居以前から顔見知りの場合が多い。そのため、利用者に関する情報も多く、利用者が馴染みやすい環境である。法人内の施設等の利用がなく利用を希望される方には、体験入居や見学などしてもらい、無理なく納得したうえでサービスの利用開始ができるように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日一日、利用者の心身の状態変化を見落とさないように十分配慮しながら、思いに寄り添えるよう支援している。また、利用者それぞれ裁縫や畑仕事など役割を持ってもらったり、職員が様々なことを教えてもらったりしながら、互いに支えあえる関係作りに努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思表示の確認を行い、意向を大切にしている。また、日々の関わりの中で、利用者の様子などからも思いの把握に努めている。また、意思の伝達、把握が困難な場合は、本人のこれまでの生活歴を参考に、本人が満足でき安心できる支援ができるように、家族とともに話し合っている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	2ヶ月に1回主治医等と担当者会議を行っている。アセスメントや利用者の情報については、ケア会議において全職員で意見交換を行いながら、利用者が自分らしく暮らせるよう、より具体的に介護計画を作成している。家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞いており、介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に行っている。また、状態変化や家族、本人の希望に応じて、随時見直しを行っている。家族には、介護計画作成担当者が説明し、確認してもらっている。	○	介護計画に基づいて日々の支援内容をチェックし、アセスメントや介護計画に反映できるよう取り組むことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院やリハビリへの同行など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医等については、契約時に利用者や家族と話し合いを行い、同意を得ている。耳鼻咽喉科を除いては、協力医療機関を受診しており、しっかりと連携を図り、いかなる時でも適切な医療を受けられるよう支援体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の主治医、家族、病院関係者等と協議を行い、利用者が寝たきりや食事がとれなくなるなどの重度化した状況に向かっている場合に、適切な医療が受けられるよう入院や早期退院への支援などに努めている。		
Ⅳ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護等に関する勉強会を行うなど、職員の意識向上を図っている。広報紙への写真掲載について、家族の同意を得るなど、個人情報についても配慮している。また、利用者一人ひとりに尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損なわないよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などの基本的な生活リズムはあるが、時間ごとに決まりはなく、利用者のその日、その時の体調や気分を尊重し、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕の食事は隣接する病院で作ったものを事業所で配膳しているが、昼食は、事業所の台所で調理している。訪問調査当日は利用者が根菜類の皮むきなどを行っており、少しでも一緒に食事を楽しむことができるよう工夫している。また、職員も利用者と同じメニューと一緒に食卓を囲んで食べており、さりげなく利用者のサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回を目安に、利用者一人ひとりの要望やタイミングにあわせて自由に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、これまでの経験や残存する力をどのような場面で発揮できるか、観察に努め、利用者が楽しみながら行える役割を見い出せるよう配慮している。また、掃除の際に埃が舞わないように茶殻をまいて掃く等、職員が利用者から教えてもらおう場面も多い。訪問当日も、色々な話をしてくれる方、お茶を出してくれる方など、生活の中でそれぞれに活躍する利用者の姿が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、職員と一緒に草むしりや収穫を楽しんだり、病院の売店に買い物に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。できるだけ外気に触れる機会を作って、心身の活性につながるよう支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に配慮し、各居室の掃き出し窓については鍵をかけているが、玄関は、日中鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害マニュアルを作成し、それに基づき訓練を実施している。訓練の記録は、写真を添付してわかりやすく整理しており、指摘された課題や学習したことを毎日の生活に反映できるよう努めている。また、地域の消防団の協力を得ており、安全面の対策に十分配慮している姿勢が窺える。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、食事、水分の摂取状況を記録しており、利用者一人ひとりの状態を全職員で共有し、様子の変化等を見落とさないよう配慮している。献立は、法人内の管理栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の一角や玄関の踊り場などに椅子を配置する等、利用者が思い思いに過せるスペースを確保する配慮がある。また、ユニット間の間仕切りにより、それぞれのユニットの音が交じり合うのを防ぎ、静かで落ち着いた空間を保っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、それぞれ馴染みの日用品や仏壇等を持ち込んだり、自分の作品等を飾ったりして、その人らしい居室となるよう支援している。また、家族の宿泊にも対応できるよう、来客用の部屋を用意するなどの配慮がある。		